

## 創価大学に対する大学評価結果ならびに認証評価結果

### <文学部・文学研究科>

#### 教育内容・方法

##### (1) 教育課程等

###### 文学部

学部の教育理念を達成するための教育内容は十分に整備されている。1年次での基礎教育の充実、2年次での専門教育化が掲げられており、アカデミック・スキルの修得を行うための基礎演習が設けられている。また、専門科目内でも基礎教育科目が必修として位置付けられ、少人数教育を通じて倫理性を培うという建学の理念が学部教育課程における基礎教育のなかに活かされている。

各学科の科目配置が、旧来の専門領域にとらわれた縦割りの発想に基づいているという印象は否めなかったが、2007（平成19）年度からの1学科7専修への文学部改組は、それに対する改革の試みとして評価できる。

共通科目運営センターが管理・実施する科目群を学生がそれぞれ選択することで、幅広い教養と知識の修得の実現を目指していることが伺える。

###### 文学研究科

教育目標は明示され、それを達成するための教育内容が整備されている。各専攻の開講科目数および種類は十分であり、博士前期課程における専門的職業人の養成、博士後期課程における研究者養成という目標を達成しうる教育・研究指導体制が構築されている。また、大学院要覧には担当教員全員の研究テーマ、学歴、専門分野についての情報が公開されており、大学院学生が指導教員を選ぶ際の重要な情報を提供している。さらに、臨床心理士の第一種指定校に認定され、理論から実践にわたる幅広い教育内容が提供されている点は評価できる。

ただし、最新の研究への対応が十分とはいえず、各専攻の学問分野を横断するような学際的プログラムが提供されていない点、社会人学生への特別な配慮がなされていない点は今後の検討を要する。

##### (2) 教育方法等

###### 文学部

少人数教育と丁寧な個別指導の実践、学生の代表と教員の代表が意見交換をする場としての「文学部協議会」の開催など、教育改善への取り組みが組織的に行われている。また、定期試験実施後のGPA算出と成績不振者の把握と個別の面接指導も実施されている。

ただし、オフィスアワーの設定が組織的ではない点、シラバスの記述に教員間で精

粗が見られる点など、改善する必要がある。

#### 文学研究科

指導教員による丁寧な個別指導、大学院成績評価に関する取扱内規の設定など、教育目標に応じたきめ細やかな方策がとられ、改善の努力も恒常的に試みられている。標準修業年限未満修了制度の導入は、大学院入学へのインセンティブを高めるものとして評価できる。

ただし、研究科全体としての組織的な履修指導や論文作成のための指導は十分とはいえない。学部教育との連続性が強調されているが、大学院教育の高度な学問性や独自性が示されていない。シラバスの記述にも十分とはいえないものが多い点、大学院学生による授業評価が実施されていない点など、改善が必要である。

### (3) 教育研究交流

#### 文学部

国際交流は積極的に推進されており、交換留学制度と推薦留学制度によって、2006（平成18）年度は58人の学生が留学している。特定の協定大学への留学に際しては、各学科のなかで互換可能な単位数を定めており、その単位数はほぼ学生の能力と現状に応じたものとなっている。

学生の交流に比して教員の研究交流は必ずしも十分とはいえないが、全体的に見れば国際交流の推進という目標は概ね達成されている。

#### 文学研究科

過去5年間で3人が在外研究に携わっている点、評価年度において専任教員が「海外先進研究実践支援」に採択されている点は評価できる。

ただし、国際交流の基本方針が明示されておらず、具体的な取り組みも見られないので、研究科における国際交流は低調と判断される。また、教員の研究交流も活発ではない。今後、海外提携大学との交流などを中心に、国際化に対応したカリキュラムの開発や海外大学院との単位互換制度の創設など、研究科レベルでの活性化について具体的な目標などを明らかにする必要がある。さらに、各種の国際交流イベントの情報、これまでの交流成果などについての資料が不足している。

### (4) 学位授与・課程修了の認定

#### 文学研究科

博士前期課程の学位授与状況や臨床心理士試験合格者数は堅調であり、高度専門職業人の養成という大学院教育に求められる課題に込んでいる。指導教授の推薦を受けた修士論文を大学院紀要に掲載することによって学位授与基準の透明性と客観性を高めようとしている点、修士論文も全文が製本後に中央図書館で保管され閲覧に対応し

ている点は評価できる。

ただし、研究指導については指導教授のきめ細かな指導がなされているが、複数教員による共同指導制度や論文執筆予定者の中間報告制度といった各教員の指導状況をチェックするシステムが未整備である点、課程博士の学位授与が教育学専攻において過去5年間で1人である点は、今後も継続して改善に努められたい。

## 学生の受け入れ

### 文学部・文学研究科

学部における収容定員に対する在籍学生数比率は、2007（平成19）年度に1.24まで改善され、今後もさらなる改善が見込まれている。入学試験の種類の多様化、編入学生の増加、留学による過年度生が多い点など、在籍学生数比率の高い理由が分析されているが、今後も継続して注視する必要がある。

なお、研究科においては、定員管理は概ね適切に行われている。

## 研究環境

### 文学部・文学研究科

専任教員の研究活動については、一部の教員に停滞気味の状況が見られるが、全体として学部・研究科の理念・目的をほぼ達成していると認められる。研究環境については、研究休暇制度、在外研究制度が整備され、研究費も適切な額が措置され、研究室も整っている。個人研究費は学部専任教員に対し一律43万円が支給され、職位による差が設けられていないことは若手の研究者支援という意味で評価できる。また、個人研究費と別に学術国際海外会議出張費の申請が認められている点も国際的な研究活動の助成としては評価できる。

## 教員組織

### 文学部・文学研究科

学部・研究科ともに、教育目標を達成するために必要な教員組織が整備されている。各学科においても、少人数制によるきめ細やかな指導が確保されており、専任教員がほとんどの主要科目を担当していることは評価できる。英文学科に5人の外国人専任教員を配置するなど、各学科の内容に応じた適切な配置も行われ、TAおよびチュードレント・アシスタント（SA）など、教育・研究支援職員の配置による授業補助が制度化されている。

教員の年齢構成に関しては、61歳以上の教員が多く在籍しているものの、2007（平成19）年3月に11人、また、2008（平成20）年3月に10人退職することが予定されておりこの問題は解消しつつあると見なされるが、継続して注視することが必要で

ある。

#### 施設・設備

##### 文学部・文学研究科

学部・研究科の理念・目的に沿った教育・研究を行うために十分な施設・設備が整備されている。また、文学部棟における耐震補強工事、アスベスト処理などの安全対策が実施されている。また、教育学専攻臨床心理学専修の教育施設である心理教育相談室は、学外からの相談受け入れが円滑にできるよう別棟で設置され、設計上も十分な配慮がなされている点は評価できる。